

菊陽人 りさーち



とみなが あきこ
富永 亜希子さん
(10歳・曲手)

- 趣味 ピアノを弾くこと
裁縫をすること
- 将来の夢 小学校の先生
- 自慢できること 背が高い
- 今一番やりたいこと 東京ディズニーランドに行きたい



とみなが ほのか
富永 帆夏さん
(10歳・曲手)

- 趣味 ファッション
服を選ぶこと
- 将来の夢 看護師
- 自慢できること 硬筆で賞をとったことがある
- 今一番やりたいこと 本格的な料理を作りたい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

*人と人のつながりを大切にし、家族や友達に支えられながら暮らしを頑張っている子どもたちの作文を紹介します。
*◇印からの文章は先生のコメントです。

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.42】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

大好きだった、おじいちゃん 菊陽北小学校 6年 斉藤 芳紀

「あつ、あぁ。」
じいちゃんの声を聞いた最後の言葉となりました。

じいちゃんは4月の初めから、お腹に腹水がたまり、しゃべる力がなくなりました。6年生になる前日、ぼくは「じいちゃん、分かる。6年生になるよ。」とつぶやいて、「がんばってね。」という気持ちを伝えてくれました。

去年の6月、ばあちゃんが、静かに眠るように亡くなりました。亡くなるまでのじいちゃんは何も言わず、ただ黙っていました。それまでは、「死ななくてよ。」と祈るような気持ちだったと思います。けれど、息をひきこったばあちゃんを見て、「こんなはずは、なか。」と言って、涙が止まらないじいちゃんを初めて見ました。

5月26日、ぼくにとつての小学校最後の運動会の日。お母さんとおばあちゃんは、じいちゃんとおばあちゃんの写真を持って、ぼくたちの「ソーラン」を見てくれました。去年の運動会では、ぼくがおどる「ソーラン」を初めて見て喜んでくれ、今年の運動会も「見に来るけんね。」と、楽しみにしていました。ぼ



▲いつも笑顔の芳紀さん

くは運動会で一番心に残ったことは、おばあちゃんが涙を流して「ソーラン」を見てくれたことです。おばあちゃんは、じいちゃんを亡くしたことがショックで、あまり元気がなかったけど、「ソーラン」を踊っている芳紀を見て、元気が出たよ。アンコールがかかって、もう一度踊ったことで、また、元気が出てきたよ。おじいちゃんもきくと、「上手、上手」と言っているよ。」と、言ってくれて、ぼくも泣きそつでした。

汽車で原水駅から亀田駅まで行く時は、いつもじいちゃんやばあちゃんが待っていてくれました。じいちゃんやばあちゃんも、今でも、じいちゃんやばあちゃんのことについて話してくれます。そのことを考えたら、とてもつらくなるので、汽車を使わないことが多くなくなりました。

でも、「いつまでも悲しい顔ばかり見せていたら天国にいるじいちゃん、ばあちゃんも悲しむよ。いつも笑顔でいることで、天国にいるじいちゃん、ばあちゃんも喜んでくれると思うよ。」と、友達に教えてくれました。

ぼくが、じいちゃん、ばあちゃんを亡くしたことで、その寂しさを感じることが多くなりました。でも、寂しさを感じることが多くなると、気がつくことができました。今度は、ぼくが支えていけるようになることが、じいちゃん、ばあちゃんにできる恩返しかな…と思っています。

◇おじいちゃん、おばあちゃんが大好きだった芳紀さんにとつて、二人が亡くなったことは、とてもつらい出来事でした。でも、友達言葉で少し乗り越える力を出せた芳紀さんでした。

ぼくのランドセル

菊陽中部小学校
2年 こたましよのすけ

ぼくのランドセルは、青森のおばあさんがかってくれました。おばあさんとおかあさんとおねえさんとぼくで二トリの店に行きました。ぼくがえらびました。おばあさんが、「だいいじにつかいなさい。一年生になるのが早いねえ。」といいました。

入学した時、とてもうれしかったです。けれど、夏休みに熊本に引っこしました。おばあさんは、朝早く電話をしてくれました。おばあさんは、「気を付けてね。」といいました。

青森は給食がなくて、おばあさんがおべんとうをつくってくれました。おばあさんとわかれて、ぼくはかなしいきもちでした。

でも今は電話で話せるので、さみしくありません。

◇しょうのすけさんは、2年の二学期に転校してきました。子や孫たちの幸せのために、一人青森に残り、熊本に送り出してくださいました。おばあさん。がんばれという思いのいっぱいあったランドセルを背負って来ていると思うと、胸が熱くなります。



▲笑顔いっぱい

きくよう文芸

菊陽句会報

垣根越し隣の犬は昼寝好き	坂本百合子	おみなへし鈴積みゆくことこのふと	井上久美子
句に生きてひとり生きて雲の峰	田中 郁子	魔の川も今はさざ波蟬しぐれ	宮川ユキエ
姑在りし日々ありありと墓洗ふ	井 子文	夜をかけて月下美人の花宴	日高 妙子
太陽を恋する彩や日照草	財津 早雪	虫籠の騒ぐ縁先夕端居	曾我 育代
病葉や案ずる人の便りなく	原野レイ子	サボテン花未明の月に贅極む	曾我トモ子
腕白も小さき掌はす地蔵盆	力 幸子	ついと来てとんぼ触るれば姉かとも	紫藤 祥子
愛らしく小さき球なる西瓜生る	寺尾千代子	窓あけて亡夫に涼風手向けたり	村上 朋子
八月や被爆ピアノの血の叫び	高橋 孝子	父の日に飛び込むメールありがとう	野口 令史
怒り持ち暴るるごとし夏の川	堀川 妙子	言い訳は漢はせざる慕まいり	松橋 強
スカイツリー梅雨に打たるもかがやいて	福田 貴子	鈴虫の音色に合はせ電話ベル	佐藤 航
想い出やくの字くの字の阿蘇山路	佐藤 節	飛魚が船の周りで歓迎す	佐藤 健
逝きし人惜しみて鳴くや法師蟬	吉野 早苗	痛み止め切れて夜蟬の何ならむ	佐藤 澄世

短歌会

ひと時の激しき雨の上りゆき雲は真白く空は青々
昔より北の夕立来ぬという黒雲離れて雷鳴遠のく
しとど降る梅雨のまにまにとどろとどろ夜の深みに鳴るはたた神
風鈴の清らかな音に暑き夜は団扇を持ちて端居してをり
青田吹く風は涼しく暮れゆきて背なに残れる暑き消えゆく
朝刊を取りに出づれば目の前をトンボ群れ舞う涼しき風に
腫澄む幼の守で明け暮れぬ絵本の世界に吾もひたりて
馳せ来たる夏雷の烈しきよ頭上に一撃北へ去りゆく

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
菊川あさみ
佐藤せい子
下田 久子
中村トシエ
山川 カツ